

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 2021年 5月 11日

事業所名 はぐハウスⅡ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86%	14%	その日の活動内容や、児童に応じて配置変えを行う	
	2	職員の配置数は適切である	71%	29%	看護師、保育士人数は基準より多く配置している。	休日は人員を増やすように配慮する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71%	29%	全スタッフと話し合いながら、業務改善に努めている。	定期的な会議を可能な限り職員全員で引き続き行う。PDCAサイクルの勉強会をしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	アンケート結果については話し合い業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%	ホームページで公開している。	公表していること、ホームページをスタッフにも伝える。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	57%	43%		第三者による外部評価を行い、業務改善していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	71%	29%	定期的に行っている	年三回の研修、毎月の勉強会を継続していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	独自のフェイスシールドを作成しており、面接や電話連絡でも情報収集を行っている。	スタッフ間で話し合い、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	標準化されたアセスメントツールはなく、独自のものを使用している。	アセスメントツールを勉強していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%	毎月の会議の中で、保育士を中心にプログラムを立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		はぐハウスと連携を取り、プログラムを工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	57%	43%	長期休暇時は、季節も考慮してイベントを提供している。	長期休暇は皆で出来る課題、個人の課題設定をする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別の課題に対しては支援計画に上げて随時実践している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%	朝のショートカンファレンスを行っている。	朝のショートカンファレンスは出来ているので、途中の交代時の申し送りを継続する。。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	57%	43%	終了時間が一定ではない為、常勤スタッフで行い、翌日申し送りをする。	終了後も短時間でも、申し送り、打ち合わせを行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援を記録しており、スタッフ会議や支援計画の振り返りに活用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%	全員6ヶ月毎のモニタリング、支援計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	86%	14%	ガイドラインの基礎活動を実施している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	主に児童発達管理責任者が参加しているが、児童に応じて看護師、保育士も参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校のホームページや、学校送迎時に学校行事予定等や学校の様子等を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	必ず主治医に指示書の記載をお願いしている。また、病院で実施するカンファレンスには積極的に参加している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	14%	園でカンファレンスのある児童は参加している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	86%	14%	卒業後の生活介護施設への引継ぎは希望があれば行っている。	情報を提供し、共有していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%	29%	重症心身障がい児が主な対象者なので、保健所の研修や、重症心身障がい児に特化した研修は、積極的に参加している。	研修を受けたことは、施設内研修を行っていった。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	29%	71%	現在は感染症のことがあり、行っていない。	コロナの影響を考慮しながら、積極的に機会をもっていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	29%	71%	現在は感染症のことがあり、行っていない。	現在参加出来ていないが、コロナの影響を考慮しながら機会をもっていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時にその日の様子を詳しく伝え、家での様子もお伺いしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	57%	ペアレントトレーニングや食育に関する講習会の情報をお知らせしている。契約時になるべく	ペアレントトレーニングを施設内研修を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	詳しく説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	電話やLINE、送迎時に報告、相談を受けた事は、なるべく早めに助言出来るように対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	29%	71%	夏祭りやクリスマスかいの時に保護者同士会話が出来るように工夫している。	コロナの影響で自粛しているがコロナ収束後には保護者会を計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	敏速な対応が出来るように整備している。	保護者が思っている事を、言いやすいように配慮する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月一回おたよりを渡し、支援活動報告を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについて保護者と書面で確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29%	71%	季節の行事に参加していただいている	今年度は出来ていない。様子をみて行っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	各マニュアルを作成している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	消防、災害訓練は年間計画の中で立案し実際に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修に参加し、その報告も兼ねて事業所内研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	けがや命に関わる事が予想される動きに関しては、支援計画に記載し、保護者に説明をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書を頂いており、保護者にもアレルギーの調査票を渡し、具体的に記載して頂いている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットは積極的に書き毎月の会議で報告、対応策の検討、改善を図っている。	ミーティングをし記録を皆で共有して、定例会議でも発表し共有する。